

定例会のお知らせ

熊田芳江先生との懇談会

テーマ：「親亡き後の生活をどうするか」

社会福祉法人「こころん」は、泉崎村で精神障害者を支援しています。ミャンマーのアウンサン・スーチーさんが人手不足が深刻な自国の農村発展に役立てようと、障害者の農福連携に取り組む「直売カフェこころや」を視察に訪れるほど「こころん」は海外からも注目されています。今回は、その「こころん」の創業者である常務理事の熊田芳江先生にお越しいただき、「親亡き後の生活をどうするか」について具体的なお話を伺います。その後で会員の皆さんからの質問の時間を設けますので、日ごろ心配していること、不安に思っていることを気軽に先生に質問していただければと思います。

日時： 令和2年1月11日（土曜日）午後2時～4時
場所： コラッセふくしま 5階 小研修室
福島市三河南町1-20 TEL 024-525-4089
参加資格： スローエクスプレス親の会会員と当事者限定

精神障害者の施設を建設する場合、ともすると地域の住民の反対で建設が難しくなったりします。

熊田さんの功績は、精神保健福祉士の資格を取って精神障害者の福祉施設をつくったということにとどまりません。地域の住民、医療福祉関係者、経営者、経済団体、農業関係者、ボランティア、行政など幅広い層のネットワークをつくり、自分達だけでできないことは回りの人達が、楽しみながら喜んで協力してくれるような地域の協力体制を築き上げました。これは熊田さんの人徳だと思います。そして障害のある人もない人もともに協力しながら生活していくノーマライゼーションの環境を作りました。「こころん」でのワークショップ、毎年行われるこころんチャリティアート展、里山再生プロジェクトでの酒米づくりなど、今まで福祉と全く無縁だった人でも気軽に障害者と共に楽しめるイベントが盛りだくさんです。熊田さんは単なる福祉の人ではなくすぐれた経営者でもあります。障害者の居場所や相談だけでなく、働く場所がなければ作ってしまえと「直売カフェこころや」「共同作業所なごみの家」をつくりました。住むところに困れば、グループホーム「こころんはうす」をつくってしまいました。行政に依存するのではなく、自分達で問題解決をしてしまうバイタリティーには驚かされます。

対人関係が苦手な発達障害があると就労が難しいことが多いです。親亡き後の問題は、グループホームなど住む場所の問題だけでなく、どうやって自活していくかの問題でもあります。「こころん」の取り組みの中に解決策があるのではないかと思います。今回熊田さんの懇談会を企画しました。皆さんのたくさんのご参加を心よりお待ちしております。

社会福祉法人 こころん 常務理事
熊田 芳江さんのプロフィール

- ・精神保健福祉士
- ・社会福祉士



【略歴】

- 1999年 精神保健福祉士 取得
- 2002年 NPO 法人「こころネットワーク県南」を設立
- 2004年 生活支援センター「こころん」を開設
- 2005年 「里山再生プロジェクト」を始動
- 2006年 自立支援法の施行に伴い地域活動支援センター1型、グループホーム、相談支援、居宅介護、多機能型事業(就労移行支援、就労継続支援B型)を開始
「直売カフェこころや」を開設・「共同作業所なごみの家」運営
- 2008年 グループホーム「こころんはうす」を開設
- 2010年 養鶏事業「矢部農場」および遊休農地を活用して農業を開始
- 2011年 4月 社会福祉法人を取得「社会福祉法人こころん」となる。
就労継続支援A型事業所 「こころん工房」を開設
- 2012年 震災後は農業分野での復興のため畜産環境技術センターと共同研究を実施、反転耕した圃場に堆肥を入れて土壌回復を図り有機栽培に切り替える(本格的な農業分野への参入)
大木代吉本店と6次化事業として「玉子酒」商品開発
那須森林の牧場と「ヌシュ・クルール」の商品開発
- 2013年 ベクレルモニターを設置して、こころや等で販売される野菜と加工品の全品目の検査を実施し安全な基準を設けて、基準以下の食品販売を徹底する
こころん工房の「かぼちゃプリン」福島県授産事業振興会自主製品コンクール金賞
(2013年スイーツ甲子園出場)
那須動物王国「カピバラスク」の商品化
- 同年 10月
ヤマト福祉財団 小倉昌男賞受賞

2018年 10月7日 ミャンマーのアウン・サン・スー・チー国家顧問・外相が、人手不足が深刻な自国の農村発展に役立てようと、障害者の農福連携に取り組む「直売カフェこころや」を訪れた。

